

ひまわり

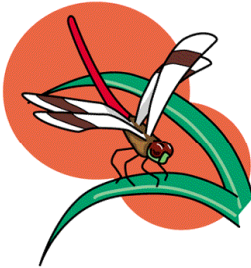


美しい国、日本

校長 西田 稔

2006年度の後期がスタートしました。後期はちょうど100日間。次の学年に進級、進学するための大切な日々となります。子どもたち一人ひとりのよさと可能性をしっかりと伸ばし、個々の学力を伸ばすことはもちろん、人としてまた、日本人としても尊敬される児童生徒を育成して参りたいと思っています。後期も本校教育の推進にあたりご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、日本では先月、小泉政権に代わって新しく安倍内閣が発足いたしました。安倍晋三内閣総理大臣は日本が目指すこの国のかたちは活力とチャンスと優しさに満ちあふれ、自律の精神を大事にする世界に開かれた「美しい国、日本」であり、「美しい国」の姿を文化、伝統、自然、歴史を大事にする国、また自由な社会を基本とし、規律を知る、凜とした国と定義しています。



その「美しい国、日本」を実現するために安倍総理は教育再生を打ち出しました。その背景には、美しい国づくりには、次代を背負って立つ子どもの育成が不可欠であるにもかかわらず、近年子どものモラルや学ぶ意欲が低下しており、子どもを取り巻く家庭や地域の教育力も低下しているという指摘があるからです。

教育の目的は、志ある国民を育て、品格ある国家、社会をつくることです。

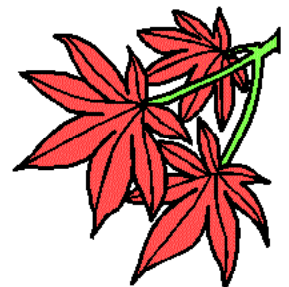
安倍総理はわずか3年ほどの間に、若い長州藩士に志を持たせる教育を行い、有為な人材を多数輩出した吉田松陰の例をよく引き合いに出します。「自ら反りみて縮(なお)くんば千万人といえども吾ゆかん、至誠にして動かざる者は未だ之れあらざるなり」とは松陰の講孟余話からの言葉ですが、この松陰が行った人づくりのように家族、地域、国、そして命を大切にする豊かな人間性と創造性を備えた規律ある人間の育成に努めると明言しました。

「美しい国、日本」を創り、支えるのは人です。目の前の子どもたちが支えていくのです。そしてその人をつくり出すのは教育です。具体的にはすべての子どもに高い学力と規範意識を身につける機会の保障、教育バウチャー制度の導入、教員の質の向上のための教員免許更新制度の導入、質の高い教育ができるよう外部評価の導入等が議論されています。

このブカレスト日本人学校も、日本人としての誇りを持ち、国際的な視野に立って活躍できる人間を育てようとしている学校です。真の国際人とは、自国の言語、文化、伝統、自然、歴史を大事にした上で、世界の諸外国の文化、伝統を理解していくことのできる能力を備えた人です。日本人であるならば、日本の文化や伝統、歴史を美しい日本語で語れる人になってほしいと願っています。その上で、在外教育施設である特徴を生かし、外国語教育にも力を入れ、真の国際人を育てます。そしてまた、家庭の教育力も大事です。学校と家庭が協力しあって子どもたちを育てていきましょう。

後期のスタートにあたり、私たちは昔から言われてきた名言「教育は人なり」、このことばを今一度かみしめ、子どもたちの前に立ちたいと思います。

最後に、今後とも本校教育を支えていただきますよう心よりお願いいたします。まして、2006年度後期の出発にあたってのご挨拶といたします。



全日参観報告

9月25日から28日まで、「全日参観」が行われました。初めて試みでしたが、のべ24名の方々に参観いただきました。ありがとうございました。保護者の方々だけでなく、日本人会の方々にも本校の日頃の様子を観ていただけたことも良かったと思っています。

子どもたちは、「だれが観に来られるだろう？」と多少のドキドキ感を抱きながらの4日間だったかもしれません。しかし、観てもらえること、温かい視線を送ってもらえることが何よりの支えです。来月には、土曜参観が行われます。今回参観できなかった方々も含め、より多くの“温かい視線・支え”を頂ければ、子どもたちにとってこれ以上嬉しいことはありません。どうぞよろしくお願いいたします。

40冊の本が寄贈されました

「財団法人 理想教育財団」より、ブカレスト日本人学校に40冊の児童生徒用図書が寄贈され、先日到着いたしました。

「理想教育財団」は、学校・家庭・地域社会全般にわたり、心の通い合うコミュニケーションの確立を使命とし、豊かな人間性涵養の基礎となるべき教育方法の探究と、教育現場でのよりよい情報伝達の追求を目的に活動しています。

新聞コンクールの後援や財団講演会の開催等、各種事業の一つとして、国内で発行された貴重な優良児童書を、平成8年より海外日本人学校など在外教育施設に贈っています。今年度寄贈が決まった10校のうちの1校に、ブカレスト日本人学校が選ばれました。

「ともだちからともだちへ」「シャーロック・ホームズの冒険」「アフガンを生き抜く少女」「三国志」など、低学年用の絵本から中学生が楽しめる本までそろっています。朝の読書の時間や休み時間など、これからの読書活動に活用していきます。



自然の恵みを満喫しました



去る10月4日(水)にぶどう狩りに行ってきました。元日本人会会長の高木様のお宅へ日本人学校が招待されたものです。

子どもたちは縦割りの3グループに分かれ、ぶどう狩りを始めました。高いところにあるぶどうの実を脚立を使って穫ります。小さい子どもたちも上級生に支えてもらって、持ってきた袋いっぱいぶどうを詰めました。みんなにここに顔でどれだけ穫れたかを報告してくれました。

ぶどう狩りの後で、用意されたおにぎり、クッキー、飲み物をいただきました。前期が終わった開放感に浸りながら、青空に映えるぶどうの下で豊かな自然の恵みを満喫した日となりました。素敵な体験を味わっていただいた高木様に、子どもたちとともに感謝したいと思います。

編集後記

秋休みに防犯カメラが設置されました。学校敷地内に4つです。東西南北全ての様子を、職員室からモニターで見ることができるようになりました。インターフォンもカメラ付きに変わりました。財団の安全対策援助事業の一環で取り付けいただきました。安全面での大きな一歩でした。◆最近の子どもの様子はと言いますと…。「先生、ぼくは無理です。」とAくん。前期最終日のルーマニア語会話でのミニ発表会のことでした。そんな彼を陰ながら支えたのは、こちらに来て間もないBさんでした。もちろん発表本番は◎。そのあと行われたみんなの発表も◎。◆後期初日、始業式では恒例の作文発表がありました。ルーマニア人のくんは、去年よりも流暢な日本語で後期のめあてを発表しました。最後は最高学年のDくん。将来を見据えてのスピーチでまとめられていました。こちら◎。◆前号発行から少ししか時間がたっていませんが、校内外ともに動きが見られました。◆さて、小さな一歩を重ねている子どもたちですが、今月末には大きな出番が待っています。10月28日(土)の学習発表会です。どの学年も活気がついてきました。ご来場をお待ちしています。(広報担当)